

平成 20 年度第 1 回 ExTEND2005 リスクコミュニケーション推進検討部会  
議事要旨

日時：平成 20 年 5 月 30 日（金）14:00-16:00

場所：合同庁舎 5 号館 2 階 共用第 6 会議室

主席委員：北野大（座長）、青山好延、内山巖雄、小黑一三、間正理恵、村田幸雄、脇  
森裕夫

事務局：木村環境安全課長他

議題：

- 1．第 10 回国際シンポジウムについて
- 2．身近な野生生物の観察事業について
- 3．化学物質の内分泌かく乱作用に関するホームページについて
- 4．その他

議事要旨：

以下の内容について、資料に沿って事務局より説明・報告を行った後、質疑応答を行った。

- (1) 平成 19 年度のリスクコミュニケーション推進検討部会(平成 19 年度第 1 回 ExTEND2005 リスクコミュニケーション推進検討部会)及び親検討会(平成 19 年度第 1 回 ExTEND2005 化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会)について報告を行った。
- (2) 第 10 回国際シンポジウム(さいたま市)について報告を行った。
  - ・10 年を振り返るということで「日本の歩み」としてよくまとめられており、また、パネル展示も十分行い、一般の参加人数も増えて一応の成果が得られたと思う。
  - ・(内分泌かく乱作用については)非常に分かりにくいテーマであり、一般の人はすぐに結論を出しにくい問題であるため、繰り返し伝える努力が必要である。
  - ・事前の広報の期間が短かったのではないかと。参加者を増やすためにも、できるだけ早くプログラムを決め、広報を早く出していただきたい。
  - ・大変わかりやすい内容のシンポジウムであったため、一昨年同様にテレビで放映していただければよかったと思う。
- (3) 平成 19 年度身近な野生生物の観察事業についての報告、及び平成 20 年度の方向性についての検討を行った。
  - ・この事業は、ExTEND2005 リスクコミュニケーションの 1 つのプロジェクトとして、子

どもたちが野生生物に親しむということで十分責務を果たしていると思う。平成 20 年度の方向性にあるように化学物質との関連性が必要であれば、それを観察現場に求めるのではなく、観察結果をまとめた報告書から、専門家の方が化学物質との関連性等を読み取って報告すればよいのではないか。

- ・(環境省) 子どもの野生生物の観察事業については、充実させつつ引き続き行っていく方向である。それに加えて、社会人など一般の方を対象として、例えばある魚が自然界でどのようになっているかといったテーマを指定して、重点的に化学物質の影響を見ていただくというような色々な試みを今後広げていきたいと考えている。
- ・(環境省) ExTEND2005 では、環境中の化学物質等の曝露と有害性を均等に扱っていきこうという形になっており、そういう考え方の一環として野生生物の観察事業がある。子どもたちにはまずは自然観察をしていただきながらも、併せて化学物質などについての理解を深めるということもやっていただきたいと思う。
- ・そういう方向で進むのであれば、例えば既に全国でメダカ・赤とんぼなどの調査をしている研究等と繋げることで、子どもたちに新たに観察しようというきっかけを与えることになり、意味があると思う。
- ・化学物質の影響かどうかということの判断が難しいということや、継続して同じ地点で観察を行わなければ結果が出せないといった問題点はあるが、いずれにしても、化学物質の影響という観点にもう少し特化しつつ、ExTEND2005 の他のプロジェクトの成果をうまく反映させながらこの事業を継続させていくということが重要であると思う。
- ・(ExTEND2005 は曝露と有害性を均等に扱っていきこうという考え方とのことであるが) 曝露について調べるのは、危険性や困難な部分もあるため、子どもたちにタッチできる範囲というのは非常に狭くなるかもしれない。
- ・指導者の方に、子どもたちが興味の段階や年代、地域、時期などにあった手法で観察ができるよう、指導をしていただくことが重要である。また、子どもたちに段階に応じた道筋をつけてあげられるマニュアル的なものがあるとよいと思う。
- ・関心や興味を持っている子どもはよりレベルの高いことまでやれるような、柔軟性のある取り組みをすれば面白いと思う。
- ・子どもたちが自分たちのフィールドで自主的に楽しく観察をし、自発的な疑問が出てくることが重要であり、その結果継続的に自分たちの近くの自然に興味を持つことで、その中に何か変化が現れた際に気付いてもらえることになる。こちらから化学物質に着目した観察になるようにと言うのではなく、子どもたちから興味が出てきたら助言をして助けてあげればよいのではないか。
- ・(環境省) 年齢やレベルに応じて、どの程度のことを行うのかということを検討する必要がある。その段階に応じてそれぞれにふさわしいやり方を、よりきめ細かく行っていきたいと思う。

(4) 平成 19 年度のホームページの運用の実績及び平成 20 年度の予定について報告を行った。

- ・平成 20 年度化学物質の環境リスクに関する国際シンポジウムの開催というのは大体

いつごろ、どういう内容でご予定されているのか。

（環境省）開催日程は12月の14日（日）・15日（月）を予定しており、まだ中身については企画検討中。1日目は一般の方々を対象に、そして2日目はもう少し専門家の方を対象にという流れで行いたい。

- ・国際シンポジウムの日程と場所だけまず第1報として、順次お知らせを掲載してはどうか。

（環境省）早めにホームページに載せるなどの工夫をしていきたい。

- ・アンケートを積極的にもらえるような工夫を検討いただきたい。また、一般の人が気になっている知りたい情報がみられるように工夫していただきたい。

（環境省）内分泌かく乱にかかわる問題でホットな問題になったものは、なるべく掲載するように考えていきたい。

- ・アンケートのインセンティブとして、アンケートに答えてくださった方は「新しいニュースが入ったらお知らせします」というメール配信サービスに登録できるというのはどうか。また、必要ない方はいつでも解除できるようにしておけばいいのではないか。
- ・「あなたが内分泌かく乱物質について不安に思っていることは何ですか」といったアンケートを行い、それにそった情報提供を行うことで、一般のニーズにこたえられるのではないか。
- ・横断的に、各国の政府がそれぞれの国民のために内分泌かく乱物質について広報しているようなところが一覧できるようなページがあったら非常に役に立つと思う。
- ・「国際的な取組」という欄にEPAが載っているので、EUについても載せていただきたい。
- ・「環境省のホームページにおける当該ホームページの位置づけの整理」についてもう少しご説明いただきたい。

（環境省）批判をお互いに展開するような性格の内容のものを環境省のホームページに掲載することについて、内部でももう少し検討する必要がある、現在の環境省のホームページからシームレスに繋がっている形についても、もう少し検討し整理していきたい。